

2021年9/10(金)14時～16時

23目標 入門・基礎マスター期 学習法ホームルーム

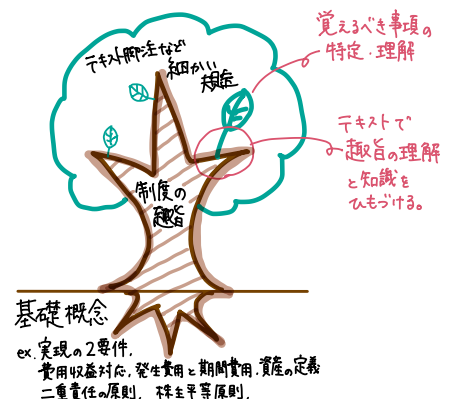
<本日の内容>

- I. 各種質問・相談窓口（校舎/zoom質問コーナー、個別相談、就職相談）
- II. 入門・基礎マスター期のポイント・スケジュール、
短答/論文本試験のポイント、論文式試験成績の決まり方
- III. 各科目の復習サイクル・学習方法の例
講義後の復習サイクル、ミスの一元化例、計算科目 上級期のメンテナンス方法例
財務理論法令基準集について
一日のスケジュール例（社会人、大学生、受験専念生）
- IV. 事前にいただいたご質問・Q&A

<配布物>

- ①本レジュメ
- ②2020年論文式試験合格者答案抜粋

<本セミナーアーカイブ動画の倍速再生方法>※後日web school「講座からのお知らせ欄」にてアーカイブ配信
PC版Google Chromeであれば、「Vimeo repeat & speed」という拡張機能を入れることで、
最大3倍速で再生可能です。



I. 各種質問/相談窓口

今後の学習の進め方のほか、いろいろな事情で思うように勉強が進められず学習方針などに悩んでいる場合には、講師、受付、就職サポートの相澤までぜひお気軽にご相談ください。

■校舎・zoom質問コーナー

科目ごとの内容質問・学習の進め方等について、講師に直接相談できる。

事前予約は不要。混んでいる時は15-20分ほど目安。

zoom質問コーナー…web school下部「zoomを利用した質問・相談コーナーについて」リンクから待機室へ

質問コーナー日程表（受講生HP「@C.P.A」）

https://www.tac-school.co.jp/kouza_kaikei/kaikei_gd_situmon.html



Q.zoomの質問コーナーを使ったことがないのですが、自分の順番の時間は分かるのでしょうか。
ログインしたままずっと待つ感じででしょうか。

↓

A.開始時刻の目安をチャット欄でご案内します。その時間に再度いらしていただければ、1度ログアウトしても大丈夫です。開始時刻の目安は、講師が質問対応の合間に、手動でチャット入力しています。開始時刻の目安が出るまで、恐れ入りますが、20分～長くても30分ほどお待ちすることがあります。ご承知おきくださいませ。

■個別成績・学習方法相談（久野・平林）

直前週の土曜日13時～ <https://tacschool.resv.jp/> でネット予約

※校舎・zoomで実施しています。



※個別成績・学習方法相談の予約が取れない場合には、
上記予約不要の校舎/zoom質問コーナー（財務理論・平林）でも
短時間ではありますが学習相談を承っていますので、そちらもご利用ください。

個別成績・学習相談日程表（受講生HP「@C.P.A」）

https://www.tac-school.co.jp/kouza_kaikei/seiseki-sodan.html



■就職サポート

TAC会計士講座 就職サポート

フリーダイヤル 0120527699（平日14～17時）

メール counselor@tac-school.co.jp

※監査法人への就活・転職以外にも、会計事務所等や一般事業会社への就職・転職や、
仕事を辞めて受験専念にするか、卒業後働きながら受験を継続するか、受験対策を辞めて就職する
場合のエントリーシートの書き方等の相談などありましたら、ぜひ相談してみてください。
zoomを使ったオンラインでの相談も可能です。

Web school マイン-ジツ画面

3月4日 (木)

■ 企業法 12:00~15:00 横 秀樹 講師

> [ご参加はコチラ](#)

■ 租税法・財務会計論 (計算) 17:00~19:00 中本 峻佑 講師

> [ご参加はコチラ](#)

3月5日 (金)

■ 財務会計論 (計算) 18:00~20:00 長谷川 哲 講師

> [ご参加はコチラ](#)

■ 監査論 19:00~21:00 高橋 充介 講師

> [ご参加はコチラ](#)

■ 企業法 17:00~20:00 横 秀樹 講師

> [ご参加はコチラ](#)

■ 租税法・財務会計論 (計算) 17:00~19:00 中本 峻佑 講師

> [ご参加はコチラ](#)

3月6日 (土)



Zoom X

エントリーされた方をご招待します。もししばらくお待ちください。

TAC

ご自身側のビデオ映像の
ON/OFFを切り替え可
【初期設定はOFFになっています】



7/17 すると
Zoomの待機室へ飛込。

久野・平林の
個別成績 学習方法相談は、
リンク先から事前にネット予約。
(予約開始は直前週の土曜日 13時~など)

The screenshot shows the University of Tsukuba's website with a navigation bar at the top. The main content area is titled '学習サポート' (Learning Support). Under this, there are three highlighted sections: 'TACの講演日程' (TAC Lecture Schedule), '新入生・転入学シニア生日程' (New Student/Transfer Senior Student Schedule), and '教員 研修・学習方法概観' (Faculty Training/Learning Method Overview). Each section has a corresponding image and a link to view the schedule. A red arrow points to the 'TACの講演日程' link.

[illegible]

Zoom 質問 - 1 -

講師と1対1
ビデオOFFでもOK.
予約不要.

関西・名古屋校
などでも質問コ-ター
あり。

II. 入門・基礎マスター期の学習のポイント

1. 財務計算・管理計算の計算力を付ける。

トレーニング・テキスト例題について、スラスラ・ストレスなく解ける状態にする。

毎回のミニテストで満点を目指す。

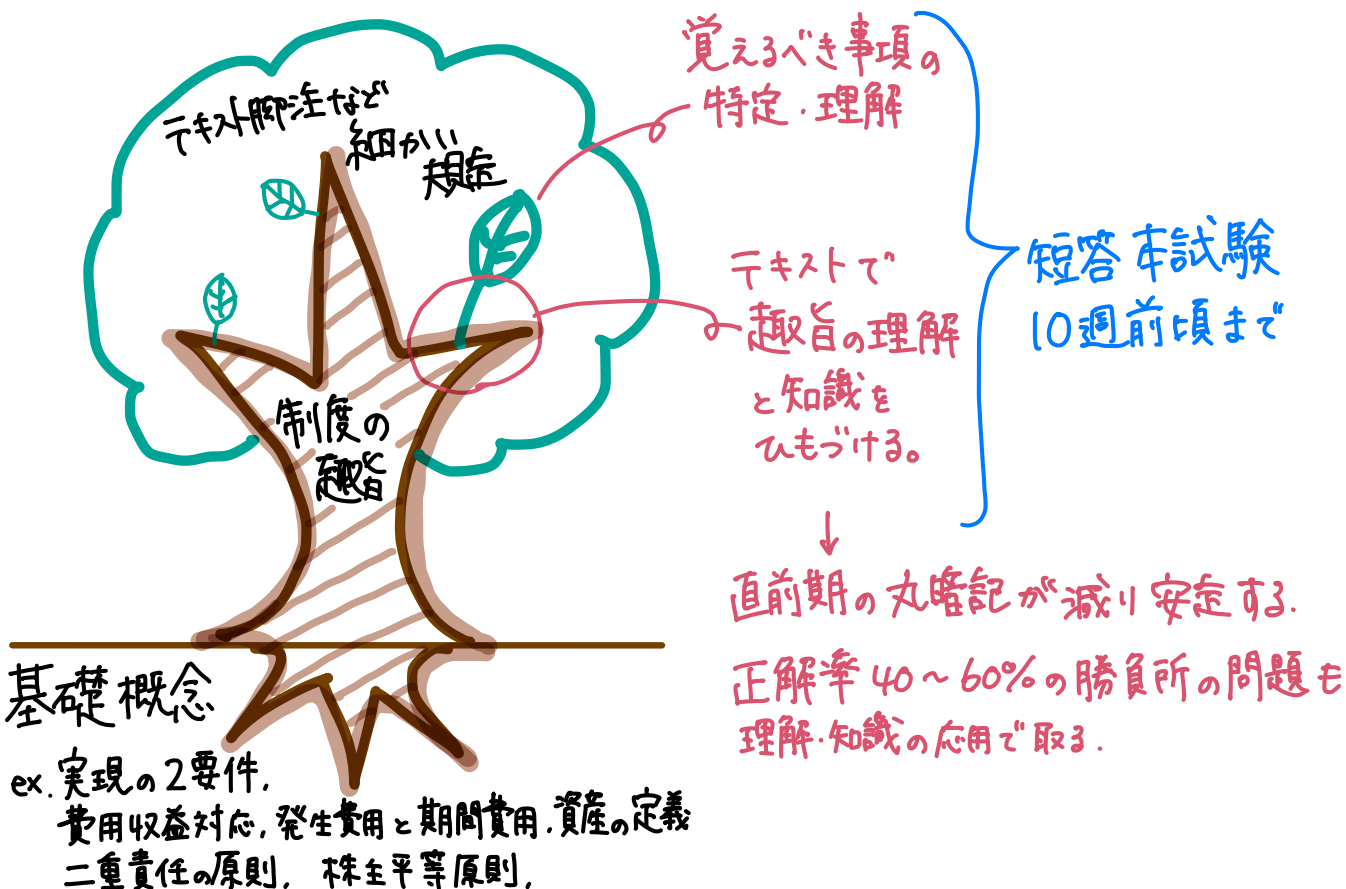
間違った箇所・解答時にストレスを感じた箇所については、テキストに必ず立ち返る。インプット不足の解消・やさしみスの分析・一元化を行う（試験直前期のメンテナンスに役立つ）。

2. 理論科目は、テキスト等の内容をある程度説明できるようにする。

7月頃まで自習時間は計算科目>理論科目でよいが、理論科目も講義後の復習を行う。特に財務会計-理論。

3. 5月のゴールデンウィーク頃や、上級講義開始時期を中期目標とする。

講義消化・復習・計算の反復練習について、積み残しのない状態にする。



各種講義の回数・開始時期目安

◎…インプット講義、■…答練（答案練習）

12月短答まで

*講義受講期、自習の比率、頻度は
財計：管理：財理：監査：企業 など
4~6 2~3 1~3 0.5~1 0.5~1

- ◎財務計算 入門講義15回、基礎マスター講義52回、上級講義14回ほど
- ◎管理会計 入門講義9回、基礎マスター講義21回、上級講義13回ほど
- ◎財務会計 理論 基礎マスター講義13回（2022年2月頃～）、上級講義20回ほど
- ◎企業法 基礎マスター講義23回、上級講義14回ほど（2021年10月頃～）
- ◎監査論 基礎マスター講義8回、上級講義12回ほど（2022年4月頃～）

基礎マスターは
2年コースと1.5年コースで
実施時期異なる

2年コースと
1.5年コース
共通

- 財務計算・管理短答アクセス15回（2022年7月～）…論点ごと。メンテナンスに活用。
- 短答基礎答練 全2回（2022年8月下旬～）…本試験と形式は同様、難易度は易しい
- 短答直前答練全3回（2022年10月半ば～）…本試験と同水準以上の難易度
- 短答全国公開模試1回（2022年11月下旬頃）

財計・管理入門24回

＋
全科目基礎マスター講義117回＋上級講義73回（計190回）

12月短答以降

- ◎租税法 基礎マスター講義7回、上級講義20回ほど（計算24回、理論3回など）
- ◎経営学 基礎マスター・上級講義17回ほど（計算10回、理論7回）
- 財務計算・管理 論文アクセス14回（1月～3月で10回、6月で4回など）…論文形式のメンテナンス教材
- 租税アクセス11回（2～3月で9回、6月で2回など）
- 論文答練（12月から開始する科目がある）
 - 基礎答練1～3…2022年12月～2023年2月前半
 - 応用答練1・2…2023年2月後半・3月など
 - 直前答練1～3（企業・監査は4回目あり）…2023年6月・7月前半
 - 全国模試1・2（2023年4月下旬、7月上旬）
- ◎論文直前講義 各科目1回ずつ（2023年6月頭）

→ 1月第3金曜頃合格発表

12月短答以降、8月論文までの大まかなスケジュール

<12月以降の講義>

租税法 経営学
BM 7回 法人税 計算 10回
基礎
上級 20回 理論 7回
(8+9+理論3回) (3月までに
4回、
6月3回)
↓ ↓
所得基礎 応用
消費基礎

2022年
12月

12月第2日曜頃 短答式本試験 → 1月第3金曜頃 合格発表

租税法・選択科目 講義開始

2023年
1月

2月 出題範囲の指定あり
自習時はまんべんなく取組む
論文基礎答練1 2・3週間おき
論文基礎答練2
論文基礎答練3
論文応用答練1
論文応用答練2
問題文の読み取り、問への素直な答え方を身につける
部分点の取り方、時間配分の練習等
財務計算・管理 論文アクセス 1~10
出題範囲の指定あり
租税法アクセス 1~9
租税法・経営学 論文基礎答練1~3 経営は2回
論文応用答練1-2

<5月短答を受ける場合>

1~3月は財務管理論文アクセス

短答科目の論文基礎答練を使う。

(できれば応用・全国0も)

2月頃
5月短答出願

使い方は12月短答後のホームルームで説明します。

3月末までは理屈重視、不明点解消
租税・経営の講義もできるだけ進めておく

3月後半 5月向け 短答直前答練 1

4月~ 短答直前期

租税・経営はストップ

4月半ば 5月向け 短答直前答練 2

Gw頃 5月向け 短答全国公開模試

5月~週別頃 5月向け 短答直前答練 3

5月第3日曜頃 短答式本試験 → 6月第3金曜頃 合格発表

4月

4月下旬 論文全国公開模試 1

5月

理論補強答練 1

理論補強答練 2

6月

出題範囲指定なし
論文直前答練 1 財務・管理 論文アクセス 11~14
論文直前答練 2 管理は出題範囲の指定なし
租税法アクセス 10・11
出題範囲の指定あり

論文直前講義 各1回ずつ

7月

論文全国公開模試 1

論文直前答練 3

論文直前答練 4 (監・企のみ)

8月

↓ 回転期

8月第3週頃 (金・土・日) 論文式本試験 → 11月第2(金)頃 合格発表

9月は手応えに関わらず
法人説明会参加

→ 数日以内に
エントリーシート
提出、面接開始
→ 12月頃
内定
→ 12月半ば
2月頃など
入社

短答式試験 各科目のポイント

9:30 - **企業法** 5点×20問 問題集
A★付きの問題
テキスト太枠の理解、頻出条文の構造理解。
問題集回転のみでは、近年のふねりのある問題に対応できない！

11:30 - **管理会計** 理論5点×8問 + 計算7.8点×8問
原価計算基準は内容を理解し、上で要所要所暗記。
計算は解く前に解法・手順を思い浮かべて、難易度の比較の易い問題から。計算・理論共にテキストを太枠に。

14:00 - **監査論** 5点×20問 まずは論文対策問題集の
「point」部分を理解。
(暗記も必要)
テキスト本文・脚注を隅々まで理解。
要求事項「～なければならぬ」を明確にする。
問題集だけ回すのは△

16:00 **財務会計** 比較的易いので
2ミスにおさえる！ $\frac{5}{500点} = 1\%$ $\frac{8}{500点} = 1.6\%$
1 **理論**
18:00 8点×9～11問
理論科目の中では唯一配点が5点ではなく8点。
テキスト本文・脚注の典型論点は必ずおさえる。
原則・容認、場合分け、要件の数値に注意。

計算
個別 8点×11～13問
+
総合 4点×6問
一度短答アセス・例題・トレーニング(2時間分はアップ)を使って固めてしまえば、その後は1日1.5～2時間ほどメンテナン스가できる。ミスはテキストへ。難易度Aを全取りする。理論の理解でBも半分取れると good

論文式試験 各科目のポイント

大問ごとに偏差値が出る。苦手分野を作らないこと、テキストの理屈をざっくり説明できる状態を今から意識する。

2021年

8/20(金)

10:30-12:30

監査論(100点)

論文問題集「point」部分を
まず理解と暗記。
テキストのガリッ体も暗記に
使えるように。
問題文を引用して素直に答える。
事例問題は「型」をおぼえて現場対応。

14:30-16:30

租税法(100点)

理論 40点
計算 60点
SEK 30点
FPP 15点
消費 15点

法人税①テキストが最重要。
次に所得税。
理論は理論テキストの問題、答練の
出題箇所を理論テキストの「要約条々
A-1」で代用。

8/21(土)

会計学(300点)

10:30-12:30

午前(管理会計) 25分×4問など。

理論問題集は、テキストで理解した上で
減点要素が1つも無いレベルで暗記。
計算は、難易度の易い箇所を
採って正確に解く。大問ごとの平均
点を意識。

14:30-17:30

午後(財務会計) 3時間 55分×3問など。

理論 典型論点について、
①順序立てて、キ-ワードを
使いつつ素直に答えられるか?
②応用的な問題で、
使いつつ自分なりに答えられるか?
③解答の出だしと締めは問題文を
引用
④難易度の易い箇所を採って
正確に解く。大問ごとの平均点を意識。

8/22(日)

10:30-12:30

企業法(100点)

テキスト
問題集

1. 論点に気づけるか?
 2. メイン条文を導けるか?
 3. 適切に論理が組み立てられるか?
- と答練・問題集で構成の型を知り、
要件の暗記。
(テキスト太枠内定義はカギ要素)

14:30-16:30

経営学(100点)

戦略組織論 50点
ファイナンス(計算) 50点

理論は単語暗記。18分-10分ほど。
ファイナンスはテキスト後半問題や問題集
レベル1のおなじ難易度の易い問題で
ケアレスミスをせず正確に解けるかが勝負。

<理論解答作成のポイント> []内=解答で引用部分

ex. <テキスト>

Aは11月で、Cの観点からは、
甲であり、乙と見做される。また、
Dの観点からは、乙と見做される。
そのため、Aは11月で、Dの観点
からは、乙と見做される。このため、
Aの観点からは、乙と見做される。
Xは乙と見做される。

問: [Aは11月で] Bと見做される。その理由を
[Cの観点から]説明しなさい。
答: [A]については、[Cの観点から]は、~ため、
[B]と見做される。
短縮ver: 「本問のようにいわれる。」

<目指すこと>

① 問いに素直に答える。

② 過不足なく答える。

③ 問題文の指示に従う。

ex. 「Cの観点から説明しなさい」

<避けること>

論点ズレ

問われていないことを
説明しては行

ex. Aは11月で、Cの観点からは~ため、
Dの観点からは、乙と見做される。乙と見做される。
Xは乙と見做される。

余事記載

問いと直接関係のない
ことを書き足して減点

ex. Aは11月で、Cの観点からは~ため、
Dの観点からは、乙と見做される。乙と見做される。
Xは乙と見做される。

問題文で
最後に締める。
1-2行余でOK。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

指示に従ってほしい
(論点ズレ、余事記載)

ex. Aは11月で、Cの観点からは~ため、
Dの観点からは、乙と見做される。乙と見做される。
Xは乙と見做される。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

<目指すこと>

④ 大問ごとに
平均点以上

⑤ 典型論点は
キ-ワードを使う。

⑥ 応用的な問題で
1-2点ずつ部分点を
積み上げる。

⑦ 順序立て
丁寧に説明する。

⑧ 形式上のルールを
守る。

⑨ 一文一意。
短い文章を積み上げる。

<避けること>

いずれかの大問に
[h]以上かけては行

典型論点でキ-ワードを
使わず減点

典型以外白紙

論理飛躍

箇条書き、体言止め

1字下げをしてはいない適切な改行

一行の空行を改行しては行

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

<対策>

大問ごとに
Max 55分を
考える。

ex. 企業 15-20分 横断 35分
解答書24

答練で出る論点には
シ-レ-

部分点狙いの7-8分を作る
(問題文を引用)

[A]は11月で、[C]の観点からは、
[B]と見做される。乙と見做される。
Xは乙と見做される。

テキストで
論理構成をすべし。
ex. Aは11月で、Cの観点からは~ため、
Dの観点からは、乙と見做される。乙と見做される。
Xは乙と見做される。

①
②
③
④

ルールを守る。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

「~の観点から」
「~に照らして」
「~を踏まえて」
「~を比較しながら」
などの指示に
マーカー。

3行以上の長文となり、途中で
主語述語、関係が崩れる

1-2行の短-文を
積み上げて説明する。

論文式試験成績の決まり方

2019年5→8月合格

Aさんの論文本試験での成績

$$\text{調整後得点} = \text{得点比率} = \left(\text{偏差値} \times \frac{\text{大問ごとの配点}}{100} \right)$$

Point: 全科目について、理論で空欄は作らなかった。→部分点を積み上げた。

問題文の引用を駆使して、論点ズレ・余事記載を防いだ。→財理・監査で稼げた。

時間配分は「大問一つに1時間以内」を守った。→大問ごとに大きくは下振れしなかった。

大問ごとに偏差値が出る。

会計学 (第1問25.95 + 第2問26.8 + 第3問29.1 + 第4問33.39 + 第5問35.98) ÷ 300点 → **50.45**

会計学午前 (管理会計)

第1問 素点20.5/50 偏差値 51.9 × 0.5 → 調整後得点 25.95/50

第2問 素点12.5/50 偏差値 53.6 × 0.5 → 調整後得点 26.8/50

会計学午後 (財務会計) **財務は1問の配点大**

第3問 素点31.5/60 偏差値 48.5 × 0.6 → 調整後得点 29.1/60...減損の計算で2ミス

第4問 素点23.5/70 偏差値 47.7 × 0.7 → 調整後得点 33.39/70...SO,ARO計算ミス,理論OK

第5問 素点 19/70 偏差値 51.4 × 0.7 → 調整後得点 35.98/70...計算は△, 理論OK

監査論 第1問32 + 第2問31.25 → **63.25**

第1問 素点20.5/50 偏差値64 × 0.5 → 調整後得点 32/50...問題集のpointをおさえていた

第2問 素点 25/50 偏差値62.5 × 0.5 → 調整後得点 31.25/50...問題文の読み取りに丁寧に時間をかけた

企業法 第1問25.55 + 第2問24.85 → **50.4**

第1問 素点21/50 偏差値 51.1 × 0.5 → 調整後得点 25.55/50

第2問 素点19/50 偏差値 49.7 × 0.5 → 調整後得点 24.85/50...趣旨を書き忘れた箇所あり

租税法 第1問20.64 + 第2問29.7 → **50.35**

第1問 素点20/40 偏差値 51.6 × 0.4 → 20.64/40...6月以降,要約条文に答練を一元化

第2問 素点19/60 偏差値 49.5 × 0.6 → 29.7/60...消費税は一箇所のみ取った

経営学 第1問28.65 + 29.3 → **57.95**

第1問 素点31/50 偏差値 57.3 × 0.5 → 28.65/50...章末まとめを毎日確認していた

第2問 素点44/50 偏差値 58.6 × 0.5 → 29.3/50...直前期,章末問題・レベル1を毎週1周

(会計学50.45 × 3 + 監査論63.25 + 企業法50.4 + 租税法50.35 + 経営学57.95) ÷ 700

会計学は3倍!

= 総合53.43 > 合格基準値52

↓
合格

(1,000番台/合格者1,337人 論文受験者3,772人)

Ⅲ. 各科目の復習サイクル・学習方法の例

1. 財務会計論（計算）

短期合格には、基礎マスター期における財務計算の自習が一番重要。

(1) 入門・基礎マスター期のポイント

Q.問題を解くスピードは、どのくらいの時期から意識すべきでしょうか。

■基礎マスター期までは「**正確性**」を意識する。

■「問題」ではなく、「論点」をつぶす。**間違った箇所や解答時にストレスを感じた箇所はテキストに必ず立ち返る。ミスの分析・一元化を行う。**

■理解が不安な箇所は、講師に質問する。自習時間は主に反復訓練の時間と捉える。

テキストや講義中のメモ書きを読んでも解決しなければ、一人で悩み過ぎず、校舎/zoomでの質問コーナー等を積極的に活用する。

(2) 復習サイクル・学習方法の例

○講義受講時：集中してメモを取る。例題の下書きは、裏紙やノートを用意して一緒に練習する。

↓

○講義直後：その日のうちに、メモ書きを中心にざっくりテキスト確認。

↓

○講義翌日：例題・トレーニングを復習。

間違った箇所や解答時にストレスを感じた箇所はテキストに必ず立ち返る。

ミスの分析・一元化（テキストや、論点チェックリスト等）を行う（次ページ参照）。

↓

○次回講義までに：トレーニングがスラスラ・ストレスなく解けるように反復練習、ミス確認。苦手な問題は、必要があれば実力テストまでに繰り返し解く（徐々に解くべき問題を減らしていく）。

↓

○次回講義前：ミニテスト受験。次回講義受講

※毎回のミニテストで満点を目指す。ミスは分析・一元化。

↓

○実力テスト・パワーアップ問題受験までに：もう一度トレーニング・テキストを復習。

苦手な問題は、必要があればスラスラ解けるようになるまで繰り返し解く（徐々に解くべき問題を減らしていく）。**実力テストで70点以上を狙う。実力テスト・パワーアップ問題は、初見で点数が悪くても凹まず、ミスの分析。ミスの分析・一元化を行う。**

↓

○上級期までに：トレーニング・実力テスト等を自信を持って解けるよう、テキストと併せて復習する。

上級期のポイント（2年コースの場合、2022年4月頃～9月頃）

■「**正確性**」を前提として、「**スピード**」も向上する。

■アウトプット教材として、短答**アクセス答練（7月頃～）**、**短答答練（8月頃～）**を用いる。間違った箇所・解答時にストレスを感じた箇所についてはテキストに必ず立ち返り、ミスの分析・一元化を行う。答練前には、一元化したミスのメモ書きを毎回確認する。

■まだ苦手なトレーニングの問題が残っていれば、解き直す（ミスはテキスト等へ一元化）。

短答直前期のポイント（2022年10月頃～）

■理論科目の知識暗記に時間を多く充てるため、計算については短時間でメンテナンスを行う。主なメンテナンス教材は、アクセス答練の解き直しと、テキスト確認（ミスを一元化しておく）。概ね2週間で全論点1周を繰り返す。

■本試験前日に見る論点を、答練前日にも確認（配当時積立、のれん等調整額、1株あたり情報など）

■短答答練では難易度Aが迅速かつ正確に解けるかを意識。

計算のミス分析・一元化

ポイント

- ◎間違えた問題について、なぜ解けなかったのか？徹底的に分析する（以下の例参照）。
インプット不足？反復練習やメンテナンス不足？やらかしミス？
- ◎正解した問題についても、解答時不安に感じた箇所はないか、下書きをシンプルにできないかなど振り返る。

原因①インプット不足

ex.「細かい知識・計算処理が抜けていたため、自力では時間制限なしでも解けなかった。」
「仮にテキストを見ながらであれば正解できた。」「以前も同じミスをした。」



テキストでインプット強化、トレーニングの反復、ミス一元化とテスト前の再確認。

原因②スピード不足

ex.「もう少し時間があれば、自力で正解できた。」



■電卓のスピードではなく、計算処理を思い出すスピードを速くする。テキスト確認、トレーニング等の反復・テスト前のメンテナンス。

■時間配分・取捨選択方法の修正（ex.親会社株主に帰属する利益は後回しにする）。

■仕訳の勘定科目は、平仮名・カタカナ・アルファベット2文字などに省略して書く。

ex.売上高…U上、売上原価…UG、売掛金…Ux、その他有価証券評価差額金…そさ、
有価証券売却益… BR (revenue)、手形売却損…手BE (expense)

利益剰余金期首…り、非支配株主持分当期変動額…ひと、備品…ビヒン

ex. 罎 / そさ

ex. BH2 テキスト⑤
商品成果連結 →
ダダンストリーム

9" 罎 / ⑤UG
⑤UG / 罎

原因③やらかしミス

ex.「自信を持って解き、正解したと思ったが、誤りの選択肢だった。」「下書きは合っていた。」「電卓ミス。」「転記ミスした。」



解く際の行動を修正する。短答・論文共に、やらかしミスをいかにゼロにするかが勝負。
内容に応じて、具体的な対策を立てる（次ページ参照）。

計算 やらかしミスの原因と対策例

原因	対策例
①下書きを省略しすぎた	講師の下書きを参考に 過不足なく 書く。 月割計算 がある論点は特に注意。 
②資料の読み飛ばし	マーカーや色ペンを使いながら読む (短答・論文共に、問題用紙・下書き用紙には使用可能)。 ✓ マーク を資料左側に付す。
③自分の下書きの読み間違い	数字ははっきり書く。自習時からB5などに 下書きを大きく書く 。
④電卓の打ち間違い	打つスピードを緩める(処理を思い出すスピードを速く する)。 ブラインドタッチ はしない。特に重要な箇所は気持ちゆっくり1・2度だけ電卓を入れるなど。
⑤電卓や資料からの転記ミス	転記時に、ペンで 指差し確認 。 電卓は体の近くで打つ。
⑥電卓を使わず暗算してミス	極力暗算はしない 。月割は指折り数えるなど。
⑦年度・決算日、税率、単位・四捨五入、償還日・事業供用日の指示をチェックもれ	マーカーや色ペンを使いながら読む (問題用紙には使用可能)。事前に計算論点チェックリスト(webschool→「教材」)や、ミスを振り返る。
⑧指示をチェックしたが、解いているうちに忘れた	解答中の自分の目の動きを振り返り、目に入る場所に書く 。 解答選択直前に、 一旦問題用紙・下書き全体を俯瞰 。

トレニング・ミニテスト・奥カテスト。
1ペー・アップ問題・答練などの
あらゆるミスを一元化し。
こまめにcheck

Point
ミスを一元化しておけば。
テキスト1冊10-20分で
ざっと点検できる

EX. 3/5(金)
トレ1-8
債券・流通分類気がない!
まず償還日check

何度も繰り返すミスは
章扉のホセンにまとめてOK

トレニングでミス

第4章 有価証券 (その1)

① 評価 実質価額が「著しく低下した」ときは、帳簿価額の取得価額に比べて5%以上の低下と認められるが、当該取得価額の取得価額の低下により実質価額が著しく低下したときは、取得価額を10%の範囲内で調整し、当該調整後の金額を「調整後価額」として処理しなければならない(実質価額)。

② 実質価額の算定 ①の範囲の調整(調整後価額)を用いて、 $\frac{\text{調整後価額}}{\text{発行株式数}} \times \text{所有株式数}$ により算定する。

③ 評価差額の会計処理 減価処理における評価差額の処理は借方であるので、「実質価額」が取得に際しての取得価額より高くなる。

④ 時価配分されているものは、時価配分と減価を行うこと。実価額は用いない。(両方とも減価はミス)

第1章 リース取引 (その1)

① リース取引の定義 ①のリース取引の定義は「リース期間が1年以上(リース期間が1年以上であるリース取引)であるリース取引」として定義される。リース期間が1年以上であるリース取引は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。リース期間が1年以上であるリース取引は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。

② リース取引の分類 ②のリース取引の分類は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。リース期間が1年以上であるリース取引は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。

第1章 リース取引 (その1)

① リース取引の定義 ①のリース取引の定義は「リース期間が1年以上(リース期間が1年以上であるリース取引)であるリース取引」として定義される。リース期間が1年以上であるリース取引は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。

② リース取引の分類 ②のリース取引の分類は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。リース期間が1年以上であるリース取引は「リース期間が1年以上であるリース取引」として定義される。

第6章 研究開発費とソフトウェア

① 未償却残高が見込販売収益額を上回った場合 販売期間の経過に伴い、減価償却を実施した後の未償却残高が見込販売収益額を上回った場合、当該超過額は一時の費用又は損失として処理する。

② 費用又は損失 = 未償却残高 - 見込販売収益額

③ 例題 6-5 短A 論B 市場販売目的のソフトウェア ① 見込販売収益額を基準に減価償却を行う場合 ② 見込販売収益額を基準に減価償却を行う場合 ③ 見込販売収益額を基準に減価償却を行う場合

④ ① 1年度期首に無形固定資産として計上したソフトウェア制作費は、600,000円である。なお、当該ソフトウェアの見込有効期間は3年である。

⑤ 販売開始時における見込販売数量及び見込販売収益

	見込販売数量	見込販売単価	見込販売収益
×1年度	2,000個	170円	340,000円
×2年度	3,000個	150円	450,000円
×3年度	2,000個	100円	200,000円
合計	7,000個	—	990,000円

⑥ ① 1年度は見込みどおりに販売されたが、×2年度の実績販売数量及び実績販売収益は以下のとおりであった。また、×2年度末における×3年度の見込販売数量及び見込販売収益は以下のように変更した。

⑦ ① 2年度末までの実績販売数量及び実績販売収益

	実績販売数量	実績販売単価	実績販売収益
×1年度	2,000個	170円	340,000円
×2年度	2,800個	150円	420,000円

⑧ ① 2年度末における見込販売数量及び見込販売収益

	見込販売数量	見込販売単価	見込販売収益
×3年度	1,600個	85円	136,000円

⑨ ① 3年度末の販売収益は×2年度末の見込みどおり計上された。また、当該ソフトウェアの見込有効期間に変更はなかった。

第1章 キャッシュ・フロー計算書

① 当座借越の状況が明らかに短期借入金と同様の資金調達活動と判断される場合

② ① 現金及び現金同等物 10,000 (貸) 短期借入れによる収入 10,000

③ ① 商品の仕入れによる支出 10,000 (貸) 現金及び現金同等物 10,000

④ ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

⑤ ① 商品の仕入れによる支出 $\Delta 10,000$

⑥ ① 営業活動によるキャッシュ・フロー $\Delta 10,000$

⑦ ① 財務活動によるキャッシュ・フロー

⑧ ① 短期借入れによる収入 10,000

⑨ ① 財務活動によるキャッシュ・フロー 10,000

⑩ ① 現金及び現金同等物の減少額 0

⑪ ① 現金及び現金同等物の期首残高 500,000

⑫ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑬ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑭ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑮ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑯ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑰ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑱ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑲ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

⑳ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉑ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉒ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉓ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉔ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉕ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉖ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉗ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉘ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉙ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉚ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉛ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉜ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉝ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉞ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㉟ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊱ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊲ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊳ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊴ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊵ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊶ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊷ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊸ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊹ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊺ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊻ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊼ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊽ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊾ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

㊿ ① 現金及び現金同等物の期末残高 500,000

トレ1-6 (26) 純額表示も終る
当期末 借入の中には、当借 2,000 金持ち収利、
当20円株に利用。

500,000 10,000
490,000

前 当
借 24,000 11,000 2,000
9,000

財作 借入減少額 15,000

トレニングでのミス

① 必要が減少は、
どんな問題か
簡単に×

財務計算 論点チェックリスト活用例

※web school上部→「学習フォロー」→「教材」→「計算論点チェックリスト」pdf

テキスト①〔金融商品・外貨〕

財務会計論【計算】論点チェックリストⅠ

p.2

論点	内容	CHECK	POINT
手形取引 (続き)	営業外手形		本業以外の取引によって生じた手形は営業外手形として処理する。一年基準により長短分類する。
	手形貸付金・手形借入金		借用証書の代わりに手形を振り出すこともあるが、B/S表示は借用証書の借入金・貸付金と同様。通常は短期であるため、短期借入金・短期貸付金として表示する。
有価証券 (その1)	売買目的有価証券		流動資産に区分する。決算において時価評価を行い、評価差額は純額で営業外損益として処理する。
			売却損益、評価損益、受取配当金、有価証券利息を一括して「有価証券運用損益」として表示することもできる。
			評価差額の処理には切放方式(期首振戻がない)、洗替方式(期首振戻がある)がある。どちらの場合でも利益に与える影響は同じ。
	満期保有目的の債券		一年以内に満期の到来する債券は流動資産に区分する。それ以外は固定資産(投資その他の資産)に区分する。 <i>ト4-5 振替忘れた! 償還日チェックする。ー また忘れた! 14.12.31.</i>
			取得差額が金利調整と認められる場合には、償却原価法を適用する。
			償却原価法(利息法)はクーポン利息の計上と同時にを行う。償却原価法(定額法)は償還時を除き決算整理で行う。
			償却原価法(利息法)は、帳簿価額に実効利率を乗じ、クーポン利息を控除して償却額を算定する。
	子会社株式・関連会社株式		固定資産(投資その他の資産)に区分する。
			取得原価で評価する。
	その他有価証券		一年以内に満期の到来する債券は流動資産に区分する。それ以外は固定資産(投資その他の資産)に区分する。
			決算において時価評価を行う。評価差額は全部純資産直入法、部分純資産直入法を適用する。 洗替方式による。
			前期に評価損が生じている場合、期首振戻により、全部純資産直入法ではその他有価証券評価差額金は消えるが、部分純資産直入法では投資有価証券評価損益は残ることに注意。
			時価があり、かつ、取得差額が金利調整差額と認められる債券は、まず償却原価法を適用し、償却原価と時価との差額を評価差額として処理する。次期期首には評価差額のみを振り戻す。 <i>ト4-9 償却原価まで振戻してしまいた!</i>
取得			支払手数料は取得原価に含める。贈与された場合は時価を取得原価とし、受贈益を計上する。
売却			売却手数料は、支払手数料勘定とするか、売却損益に含める。

よくやるミスは、テキストだけでなく

論点チェックリストに書き込んでこまめに確認

2. 管理会計論

テキストが重要!!

用語の意味ある程度覚える。

(1) 入門・基礎マスター期のポイント

- 基礎マスター期までは「正確性」を意識する。
- 「問題」ではなく、「論点」をつぶす。
- 間違った箇所や解答時にストレスを感じた箇所はテキストに必ず立ち返り、ミスの分析・一元化を行う。
- 理解が不安な箇所は、講師に質問する。自習時間は主に反復訓練の時間と捉える。
- 毎回のミニテストで満点、実力テストでできるだけ90点以上を狙う。

(2) 復習サイクル・学習方法の例

○講義受講時：集中してメモを取る。下書きなどは裏紙やノートを用意して一緒に練習する。



○講義直後：その日のうちに、メモ書きを中心にざっくりテキスト確認。



○講義翌日：言葉の意味を意識してテキストを確認し、トレーニングを実施（解き方がわからない箇所はテキスト・例題集を見つつなど）。財務計算同様、間違った箇所や解答時にストレスを感じた箇所についてはテキストに必ず立ち返り、ミスの分析・一元化を行う。一つ一つの処理に自信を持って解けるように。



○次回講義までに：トレーニングがスラスラ・ストレスなく解けるように練習。社会人の方など時間が取れない場合には、電卓を入れず勘定連絡図の下書きだけ書く復習方法も併用。基礎マスター後半からは、できればテキスト確認と合わせて短答理論問題集を実施（原価計算編は、基礎マスター講義終了後から）。



○次回講義前：ミニテスト受験、次回講義受講。

※毎回のミニテストで満点を目指す。ミスは分析・一元化。



○実力テスト受験前に、もう一度テキスト・トレーニングを復習。実力テストで90点以上を狙う。ミスの分析・一元化を行う。上級期までに、トレーニング・実力テストを自信を持ってスラスラ解けるよう、テキストと併せて復習する。

解き方が説明できるか？

1000	700
600	100
1000	

勘定だけ
理のふ
なす

上級期のポイント（2022年6月頃～）

- 「正確性」を前提として、「スピード」も向上する。
- アウトプット教材として、短答アクセス答練（7月頃～）、短答答練（8月頃～）を用いる。間違った箇所・解答時にストレスを感じた箇所についてはテキストに必ず立ち返り、ミスの分析・一元化を行う。答練前には、一元化したミスのメモ書きを毎回確認する。
- アクセス答練受験に合わせて、短答理論問題集も復習を行う。出題された箇所は、原価計算基準原文や、テキスト後半の論点ならテキストへ一元化。答練の解説冊子は、理論部分は章の並びに合わせてファイリング。
- まだ苦手なトレーニングの問題が残っていれば、解き直す（ミスはテキスト等へ一元化）。

短答直前期のポイント（2022年10月頃～）

- 理論科目の知識暗記に時間を多く充てるため、計算については短時間でメンテナンスを行う。主なメンテナンス教材は、アクセス答練の解き直し（適宜トレーニング）と、テキスト確認（ミスを一元化しておく）。概ね2週間で全論点1周を繰り返す。電卓を入れず勘定連絡図の下書きだけ書く方法も併用。
- 本試験前日に見る論点を、答練前日にも確認（費目の分類、EOQ、財務情報分析、NOPATなど）
- 短答答練では、難易度Aが迅速かつ正確に解けるかを意識。難易度Aで解けなかったものは、必要があれば解き直す（アクセスを使ったメンテナンス周期は守りつつ）。
- ・理論はテキストと合わせて、答練の問題・短答理論問題集も章ごとに確認。原価計算基準は原文に出題箇所を一元化したものを毎日計算をイメージしながら確認。

上級期 管理会計 理論

7~9月

- 短答理論問題集について、上級講義復習時・アクセス9回目以降準備時に、テキスト、トレーニングと併せて単元ごとに実施。

「原価計算基準と短答式本試験」冊子や、管理会計分野ならテキストへ出題箇所をマークして一元化。

「回転」までしなくてよいが、言葉の意味や計算処理との紐付きの理解・覚えるべき知識の特定は進める。

- 単元ごとに復習できるように、アクセス・答練の解説冊子は裁断し、理論部分は章の並びに合わせてまとめてファイリングし直す。

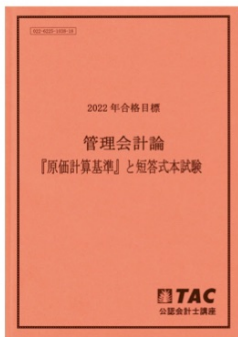
直前期(10月頃~)

- テキストと合わせて、答練の問題・短答理論問題集も章ごとに確認。

- 「原価計算基準と短答式本試験」冊子原文に短答理論問題集・アクセス・答練・過去問から出題箇所を一元化し、計算をイメージしながら毎日確認。

- ひっかを探す練習として、毎日数問解く。

「原価計算基準と本試験」冊子 活用例



<TAC>無断転載・転用を禁じます。(22年合格目標)

原価計算基準の設定について

原価計算基準の設定について

わが国における原価計算は、従来、財務諸表を作成するに当たって**真実の原価**を正確に算定表示するとともに、価格計算に対して資料を提供することを主たる任務として成立し、発展してきた。

しかしながら、近時、経営管理のため、とくに**業務計画**および**原価管理**に役立つための原価計算への要請は、著しく強まってきた。今日、原価計算に対して与えられる目的は、単一でない。すなわち、企業の原価計算制度は、真実の原価を確定して財務諸表の作成に役立つとともに、**原価**を分析し、これを経営管理者に提供し、もって**業務計画**および**原価管理**に役立つことが必要とされている。したがって、原価計算制度は、各企業がそれに対して期待する立ちの程度において重点の相違はあるが、いずれの計算目的にもともに役立つように形成され、**一定の計算秩序**として**常時継続的**に行なわれるものであることを要する。ここに原価計算に対して提起される諸目的を調整し、原価計算を制度化するため、**実践規範**としての原価計算基準を設定される必要がある。

原価計算基準は、かかる実践規範として、わが国現在の企業における原価計算の慣行のうちから、一般に公正妥当と認められるところを要約して設定されたものである。しかしながら、この基準は、個々の企業の原価計算手続を**画一に規定するものではなく**、個々の企業が有効な原価計算手続を規定し実施するための基本的なものを明らかにしたものである。したがって、企業が、その原価計算手続を規定するに当たっては、この基準が**弾力性をもつもの**であることの理解のもとに、この基準にとり、業種、経営規模その他当該企業の個々の条件に応じて、実情に即するように適用されるべきものである。

この基準は、企業会計原則の一環を成し、そのうちとくに原価に関して規定したものである。それゆえ、すべての企業によって**導き出されるべき**であるとともに、たな卸資産の評価、原価差額の処理など企業の原価計算に関係する事項について、法令の制定、改廃等が行なわれる場合にも、この基準が充分にしのげられることが望まれる。

昭和37年11月8日

企業会計審議会

<TAC>無断転載・転用を禁じます。(22年合格目標)

99年(問題21) → ○

「原価計算基準」では、「真実の原価」という言葉が「原価計算基準」の本文を含めて数回使用されている。その意味はいずれも「財務諸表の作成に使用される原価」という意味で一貫している。

00年(問題21) 穴埋め問題

企業の原価計算制度は、**真実の原価**を確定して財務諸表の作成に役立つとともに、**原価**を分析し、これを経営管理者に提供し、もって**業務計画**および**原価管理**に役立つことが必要とされている。したがって、原価計算制度は、各企業がそれに対して期待する立ちの程度において重点の相違はあるが、いずれの計算目的にもともに役立つように形成され、**(一定の計算秩序)**として常時継続的に行なわれるものであることを要する。ここに原価計算に対して提起される諸目的を調整し、原価計算を制度化するため、**(実践規範)**としての原価計算基準が、設定される必要がある。

20年第2問(問題1) → ○

企業の原価計算制度は、真実の原価を確定して財務諸表の作成に役立つとともに、原価を分析し、これを経営管理者に提供し、もって業務計画および原価管理に役立つことが必要とされている。したがって、原価計算制度は、いずれの計算目的にもともに役立つように形成され、一定の計算秩序として常時継続的に行なわれるものを要する。

02年(問題21) → ○

企業の原価計算制度は、真実の原価を確定して財務諸表の作成に役立つとともに、原価を分析し、これを経営管理者に提供し、もって業務計画および原価管理に役立つことが必要とされている。

02年(問題21)と20年第2問(問題1) → ×

「原価計算基準」は、実践規範として、わが国現在の企業における原価計算の慣行のうちから、一般に公正妥当と認められるところを要約して設定されたものである。したがって、「原価計算基準」は、原価情報の比較可能性を確保するために、個々の企業の原価計算手続を**画一的に規定するもの**である。

05年(問題21) → ○

原価計算基準は、個々の企業が有効な原価計算手続を規定し実施するための基本的な枠を明らかにしたものであり、弾力性をもつものである。

短答理論問題集

短問

短答

短問

短問

一元化

アクセス・答練

参考：財務計算・管理計算上級期 メンテナンス方法の例

ポイント：正確性・スピードの向上・維持。10-12日以内論点一周を目指す。

財務計算(1.5~2時間/日など。社会人の場合も、最低30分は実際に解く時間を確保したい)

- まだトレーニングが自信を持って解けない状態なら専念生は4~6時間充ててもOK
- 苦手なトレーニングが残っていれば解く(9月中にトレーニング卒業を目指す)
- テキスト(又は論点チェックリスト)を1日1冊分要点確認(普段からミスを集約)、**網羅的な知識維持**
- 短答アクセス・実力テスト等一部解き直し
- 本試験前日に見る論点を、答練前日にも確認(のれん等調整額、配当時積立、EPSなど)

管理計算(0.5~1.5時間/日など。社会人の場合も、最低30分は実際に解く時間を確保したい)

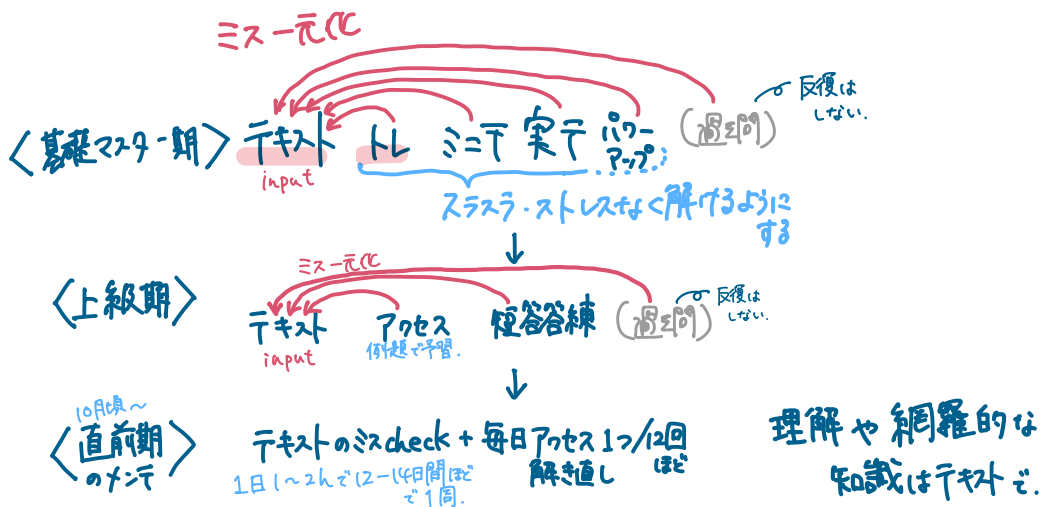
- まだトレーニングが自信を持って解けない状態なら専念生は2~4時間充ててもOK
- テキストを精読(普段からミスをテキストに集約)しながら言葉の意味・計算をイメージし、**網羅的な知識維持**

ex.テキスト前半・後半共に18頁ずつ→10日で1周

- テキストを読んだ単元について、短答アクセス・答練一部解き直し、適宜トレーニング点検

※テキストのうち、アクセスに出ていない論点や、不安を感じた論点はトレーニングを確認(全て解くのではなく、ストレスを感じる論点がないか点検する)。電卓を入れず勘定連絡図の下書きだけ書く・数量だけ埋める方法も併用。

- 苦手なトレーニングが残っていれば解く
- 本試験前日に見る論点を、答練前日にも確認(費目別、EOQ、財務情報分析、NOPATなど)



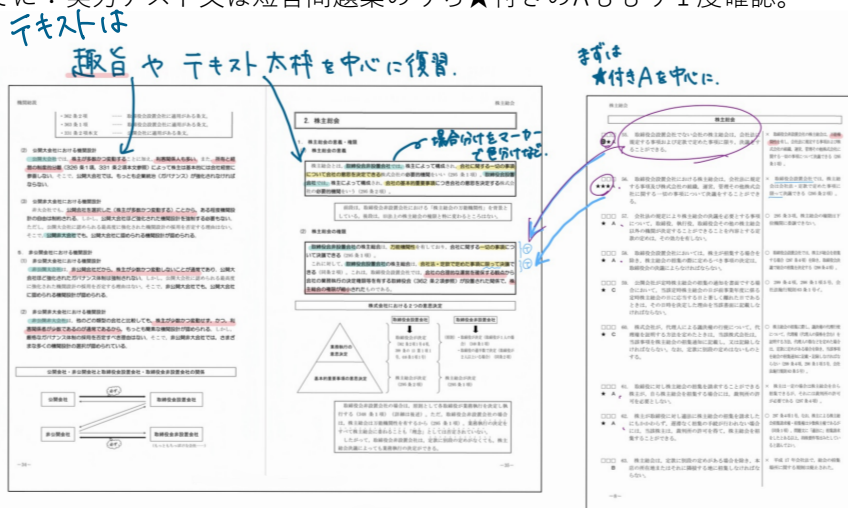
3. 企業法

(1) 基礎マスター期のポイント

- テキストの内容をある程度説明できるようにする（特にテキスト太枠内の制度趣旨）。
- 難易度の易しい短答問題を解いてテキストに戻ること、出やすい条文を中心に、制度趣旨の理解を固める。
- 株主総会の定足数など、細かい知識の暗記はまだ不要。計算力固めが優先。

(2) 復習サイクル・学習方法の例

- 講義受講時：集中してメモを取る。講義中理解できないポイントは付箋を貼るかテキストにメモして、講師に質問。
- 講義直後：その日のうちにざっくりテキスト確認。
- 講義翌日：テキスト太枠・メモ書きを中心に確認。まずは全体像と趣旨をざっくり掴む。
- 次回講義までに：短答問題集の★付きのAのみ、又は早まくり肢別問題集を解き、テキスト太枠内の趣旨を確認。
- 次回講義前：前回と数回前の講義内容もテキスト確認。
- 実力テストまでに：ミニテスト又は短答問題集★付きのAと、テキスト太枠・メモ書きを中心にもう一度確認。
- 上級講義までに：実力テスト又は短答問題集のうち★付きのAももう1度確認。



上級期のポイント（2022年6月頃～9月頃）

- 上級講義を受講しつつ、基礎マスターの論点も復習を進める。難易度の易しい短答問題（実力テスト又は短答問題集★付きのA）を解いてからテキストに戻り、テキスト太枠を中心に、単元ごと通読。出やすい条文を中心に、制度趣旨の理解を進める。問題集だけで回すことはしない。8月以降の基礎答練を中期目標とする。
- 暗記すべき事項の特定・理解を進めておく。

短答直前期のポイント（2022年10月頃～）

- 覚えるべき細かい知識を暗記。直前答練の度に（2週間ほどおき）で論点1周を繰り返す。テキストのまとめの表で網羅的に確認し、覚えにくいものは付箋を貼って毎日確認。

4. 財務会計論-理論 (2022年2月頃～)

財理は短答で1問8点!

論文でも総合偏差値への影響が大きい。

(1) 基礎マスター期のポイント

■テキストの内容をある程度説明できるようにする（特に**章扉word**や、論文式確認問題の該当箇所の、制度上の処理の**理屈**部分）。繰り返し出てくる重要な概念を理解する。

■**眺めたり書き写すだけでは、理解や暗記はできない。**理屈について、「要はこういうこと」と一言で説明できるか？論理の流れのパーツ数を思い浮かべられるか？計算でいうとどの処理の話？短答で問われそうな箇所は？章扉wordや論文式確認問題などいろんなぎっかけを活用して、何度も頭の中から引きずり出す。

■短答式確認問題を解いてテキストに戻り、テキストの規定がどのように出題されるか知る。

■細かい知識の暗記はまだ不要。

■テキストは毎回読み方を意識的に変えて、単なる読書にならないようにする。

(2) 復習サイクル・学習方法の例

6 特に論文向けの暗記箇所。

○講義受講時：集中してメモを取る。板書だけでなく、言い換え・強調ポイントも書き込む。

講義中理解できないポイントは付箋を貼るかテキストにメモし、講師に質問。

↓

○講義直後：その日のうちに、章扉・メモ書きを中心にざっくりテキスト確認。

↓

○講義翌日：マーカーを引いたブロック・メモ書きを中心に確認。

まずは全体像と趣旨をざっくり掴む。講義中触れていない脚注は一旦飛ばす。

↓

○講義翌日から翌々日までに：テキストを精読する。

論文式確認問題をきっかけとして使い、テキストを丁寧に確認（論点の見出し入れ、理屈部分の分析・理屈の構成要素のナンバリング、わからない箇所にふせんなど（次ページ参照））。

↓

○次回講義までに：論文式確認問題や章扉のword一覧をきっかけとして、理屈や大まかな内容が説明できるか毎日確認。短答式確認問題を解き、テキストに戻る。×の理由をはっきりさせる。テキストに載っていない内容があれば、テキストに要点を書き込む。講義中に触れていない脚注も確認する。

↓

○次回講義前：前回や数回前の講義内容も読み返す。次回講義受講。

↓

○上級講義までに：論文式確認問題や章扉のword一覧をきっかけとして、理屈や大まかな内容が説明できるか毎日確認。短答式確認問題ももう一回実施。テキストの精読・サクサク読み（1頁10～30秒ほどで要点を確認し、苦手な頁にふせん）を並行して進める。

9

※その他の復習方法

慣れくると1日で45ページなど。上級まで合わせて7-10日(1周)など。

■章扉に複数回登場するワードや特定の勘定科目等など、テーマを決めて横串を刺して読む（デジタル教材でキーワード検索を行い、複数章を読み比べるなど）。

■暗記が必要な重要定義を暗記カードに入れて持ち歩く（眠い時などの作業として1枚作るなど）。

「これは必ず覚えよう!」と講義で特に指示されたものが対象。

特段指示されていない定義は、

基本的に、論文時参照できる基準集に記載がある。

[illegible]

財務理論 短答で問われやすい論点の例

- ①基準の適用範囲 ex.棚卸資産に該当するか？
- ②原則（「～とする。」）・容認・例外・経過措置・特例処理の関係
- ③容認処理等が認められるための要件の個数・内容
- ④場合分け 「～の場合には、」
- ⑤計上するタイミング（認識時点）
- ⑥計上金額の算定方法（CFの見積方法、割引率、控除・加算する要素） ex.直接経費
- ⑦表示（勘定科目、流動固定分類、販管費・営業外損益・特別損益などPL上の区分）
- ⑧特別な注記の要否 ex.解約不能のオペレーティングリースに係る未経過リース料の注記
- ⑨処理・注記等が不要となる規定の有無 ex.連結上開示している場合における個別上の扱い

解答上のPoint

1. 誤りの記述を探す！ あやしい箇所には印を付ける。

2. 特段誤りが見つかれば、判断を保留。

積極的に「正」とは判断しない。

3. 自信の有無をXの大きさで示す。

Xを2の自信を持って
判断できた
ため、
この問題
全体を
「自信あり」と
評価

令和2年第Ⅱ回短答式財務会計論

問題7 次の引当金に関する記述のうち、正しいものの組合せとして最も適切な番号を一つ選びなさい。（8点）

ア、「企業会計原則」によれば、保有している設備の利用によって毎期生じる修繕費であつて、修繕費の見積りが過去の経験などに基づいて合理的に見積もることができるような引当金設定要件を満たす場合には、法令に基づく修繕義務がなくても、引当金を計上することになる。○

自信を持って
Xと判断
できた

イ、貸倒引当金は、評価性引当金であり負債性引当金とは異なるため、将来の特定の費用または損失であつて、その発生可能性が当期以前の事象に起因し、発生の可能性が高く、かつその金額を合理的に見積もることができる場合に計上するという引当金の計上要件を全て満たしている必要はない。X

ウ、株主優待制度を採用している企業において、一定数以上の自社株式を基準日（期末日）に保有している株主に対する優待に係る支出は、剰余金の分配手続によらず、所有株数に完全には比例しないことから、相当ではなく費用処理することになる。この優待内容が、基準日より前に株主に公表され、利用実績に基づき、翌事業年度以降の利用により発生する額を合理的に見積もることができる場合には、株主優待引当金を計上する。○

エ、工事損失引当金は、受注した工事が赤字工事であることが、工事進捗により明らかになった場合に計上する引当金であるため、受注時において、赤字工事であることが明らかな場合、工事の進捗に応じて合理的に見積もった引当金を計上すればよい。X

初見や
自信を持って
判断できない

「見たことが
ないからX」は
NG

よくわからない
から一旦
とぼそう...

進捗0%
でも
計上す
はず

1. アイ 2. アウ 3. アエ 4. イウ 5. イエ 6. ウエ

参考：会計学「論文式試験 参考法令基準集」の使い方

(1) 載っているもの（論文で暗記不要）

- 見出し横に「～基準」と表示されている論点の、**具体的な処理方法や適用要件**
- 各会計基準の**前半部分**（項番号が小さいもの）は載っている（後半の理屈部分は載っていない）。

ex.

引当金の4要件（企業会計原則 注）
ファイナンス・リース取引の定義、ヘッジ会計の意義
金融資産の消滅の認識 支配の移転3要件
金利スワップの特例処理の適用要件
連結の範囲 支配力基準
分離元企業・被結合企業の株主の処理
キャッシュ・フロー計算書 資金の範囲

理屈部分も説明できる
ように意識。

(2) 載っていないもの（覚える必要がある）

- 各会計基準の後半部分にある「結論の背景」という**理屈部分**（項番号が大きいもの）は、論文式試験では参照できないように「xx～xxx項 略」など并表示され配付される。
- 「～実務指針」「～適用指針」（脚注の細かい規定など）、「財務会計の概念フレームワーク」、「連続意見書」「論点整理」、企業会計審議会時代の基準「設定意見書」は載っていない。

(3) 自習時（基本的には12月短答以降使用でOK）

- 論文式確認問題の該当箇所について、定義や要件などの**暗記が必要か迷ったら**、見出し横に「～基準 注14」など書いてある場合には法令基準集を確認し、暗記の負担を減らす（基本的に、載っていない定義や要件については、覚えるように講義中指示がある）。
- 法令基準集の目次（左側から開く）に目を通し、テキスト各章との対応関係を把握。

(4) 論文答練・本試験時 **処理が問われたら、理屈も書く。**

- 具体的な処理方法や判断基準、条文番号**などが問われた時に、目次に基づき検索する。
- テキストの章ごとのページ構成と概ね一致(収益認識に関する会計基準以外)。定義等→処理→開示。
- やみくもに探して時間を費やさない。**見つからない時は後回しにして他の問題・計算問題を取る。**

法令基準集を用いる問題の出題例(2020、2021年本試験でも出題)

2019年第5問 分離元企業の会計処理（関連会社に事業分離 対価株式）

【問】

X2年度期末において、〔資料Ⅱ〕3. の取引についてZ社が行うべき個別財務諸表および連結財務諸表における会計処理を、現行基準に基づいて説明しなさい。

【解答例】

本問の取引において、Z社は、事業投資である関連会社A社への影響力の行使を通じて、移転したZ1事業に関する事業投資を引き続き行っていると考えられる。そのため、Z社は、個別財務諸表上、Z1事業に関する**投資が継続**しているとみなして、移転損益は認識せず、受け取ったA社株式の取得原価は移転したZ1事業に係る株主資本相当額に基づいて算定する。

そして、連結財務諸表上は、関連会社A社に対して持分法を適用し、A社に対して投資したとみなされる額とA社に係るZ社の持分の増加額との間に生じる差額をのれん又は負ののれんとして処理する。また、Z1事業が移転されたとみなされる額とZ1事業に係るZ社の持分の減少額との間に生じる差額は、持分変動差額として処理する。

参考

法令基準集を用いる問題の出題例(2020、2021年本試験でも出題)

2019年第5問 分離元企業の会計処理(関連会社に事業分離 対価株式)

※[コ]内は解答に引用する問題文

【問】

X2年度期末において、〔資料Ⅱ〕3.の取引についてZ社が行うべき個別財務諸表および連結財務諸表における会計処理を、現行基準に基づいて説明しなさい。

【解答例】

本問の取引において、Z社は、事業投資である関連会社A社への影響力の行使を通じて、移転したZ1事業に関する事業投資を引き続き行っていると考えられる。そのため、Z社は、個別財務諸表上、Z1事業に関する投資が継続しているとみなして、移転損益は認識せず、受け取ったA社株式の取得原価は移転したZ1事業に係る株主資本相当額に基づいて算定する。

そして、連結財務諸表上は、関連会社A社に対して持分法を適用し、A社に対して投資したとみなされる額とA社に係るZ社の持分の増加額との間に生じる差額をのれん又は負ののれんとして処理する。また、Z1事業が移転されたとみなされる額とZ1事業に係るZ社の持分の減少額との間に生じる差額は、持分変動差額として処理する。

2018年第4問 売買目的有価証券、運用目的の金銭信託の処理

第5問 のれんの変動事由(企業結合会計基準を参照との指示あり)

*... 暗記の負担を減らすのに便利(軽便的)な基準(軽便的)

目次	
企業会計基準委員会による会計基準	
企業会計原則	1
第一 一般原則	1
第二 損益計算原則	1
第三 貸借対照表原則	3
企業会計原則注解	6
外貨建取引等会計処理基準	16
一 外貨建取引	16
二 在外支店の財務諸表項目の換算	17
三 在外子会社等の財務諸表項目の換算	17
外貨建取引等会計処理基準注解	18
連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準	21
連結キャッシュ・フロー計算書作成基準	21
第一 作成目的	21
第二 作成基準	21
第三 表示方法	22
第四 注記事項	22
キャッシュ・フロー計算書作成基準	23
中間連結キャッシュ・フロー計算書作成基準	23
中間キャッシュ・フロー計算書作成基準	23
連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準注解	23
研究開発費等に係る会計基準	25
一 定義	25
二 研究開発費を構成する原価要素	25
三 研究開発費に係る会計処理	25
四 研究開発費に該当しないソフトウェア制作費に係る会計処理	25
五 財務諸表の注記	26
六 適用範囲	26
研究開発費等に係る会計基準注解	26
税効果会計に係る会計基準	28
第一 税効果会計の目的	28
第二 税効果会計に係る会計基準	28
第三 繰延税金資産及び繰延税金負債等の表示方法	29
第四 注記事項	29
税効果会計に係る会計基準注解	30

目次	
固定資産の減損に係る会計基準	32
一 対象資産	32
二 減損損失の認識と測定	32
三 減損処理後の会計処理	34
四 財務諸表における開示	34
固定資産の減損に係る会計基準注解	35
企業会計基準委員会による会計基準	
第1号 「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」	37
第2号 「1株当たり当期純利益に関する会計基準」	40
第4号 「役員貸与に関する会計基準」	47
第5号 「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」	48
第6号 「株主資本等変動計算書に関する会計基準」	50
第7号 「事業分離等に関する会計基準」	53
第8号 「ストック・オプション等に関する会計基準」	69
第9号 「連結資産の評価に関する会計基準」	76
第10号 「金融商品に関する会計基準」	81
第11号 「関連当事者の開示に関する会計基準」	92
第12号 「四半期財務諸表に関する会計基準」	96
第13号 「リース取引に関する会計基準」	108
第15号 「工事契約に関する会計基準」	112
第16号 「持分法に関する会計基準」	117
第17号 「セグメント情報等の開示に関する会計基準」	121
第18号 「資産除去債務に関する会計基準」	129
第20号 「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」	133
第21号 「企業結合に関する会計基準」	135
第22号 「連結財務諸表に関する会計基準」	148
第23号 「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正	160
第24号 「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」	161
第25号 「包括利益の表示に関する会計基準」	167
第26号 「退職給付に関する会計基準」	170
第27号 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」	178
第28号 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正	182
第29号 「利益調整に関する会計基準」	184

事業分離等に関する会計基準

2019年第5問で使用

受取対価が分離元企業の株式のみである場合の分離元企業の会計処理

分離元企業が子会社となる場合

17. 事業分離前に分離元企業は分離元企業の株式を有していないが、事業分離により分離元企業が新たに分離元企業の子会社となる場合、分離元企業(親会社)は次の処理を行う。

(1) 個別財務諸表上、移転損益は認識せず、当該分離元企業が受け取った分離元企業の株式(子会社株式)の取得原価は、移転した事業に係る株主資本相当額に基づいて算定する。

(2) 連結財務諸表上、分離元企業(親会社)の事業が移転されたとみなされる額と、移転した事業に係る分離元企業(親会社)の持分の減少額との間に生じる差額については、資本剰余金とする。

なお、分離元企業は、分離元企業を取得することとなるため、分離元企業の連結財務諸表上、パーチェス法を適用する。

18. 事業分離前に分離元企業は分離元企業の株式を有し、その他有価証券(売買目的有価

事業分離等に関する会計基準

加額(追加取得持分)と、移転した事業に係る分離元企業(親会社)の持分の減少額との間に生じる差額は、資本剰余金とする。

分離元企業が関連会社となる場合

20. 事業分離前に分離元企業は分離元企業の株式を有していないが、事業分離により分離元企業が新たに分離元企業の関連会社となる場合(共同支配企業の形成の場合は含まれない。次項及び第22項において同じ)、分離元企業は次の処理を行う。

(1) 個別財務諸表上、移転損益は認識せず、当該分離元企業が受け取った分離元企業の株式(関連会社株式)の取得原価は、移転した事業に係る株主資本相当額に基づいて算定する。

(2) 連結財務諸表上、持分法適用において、関連会社に係る分離元企業の持分の増加額と、移転した事業に係る分離元企業の持分の減少額との間に生じる差額は、次のように処理する。

① 分離元企業に対して投資したとみなされる額と、これに対応する分離元企業の事業分離直前の資本(関連会社に係る分離元企業の持分の増加額)との間に生じる差額については、のれん(又は負ののれん)として処理する。

② 分離元企業の事業が移転されたとみなされる額と、移転した事業に係る分離元企業の持分の減少額との間に生じる差額については、持分変動差額として取り扱う。ただし、①と②のいずれかの金額に重要性が乏しいと考えられる場合には、重要性のある金額を含めて処理することができる(次項及び第22項において同じ)。

21. 事業分離前に分離元企業は分離元企業の株式を有しその他有価証券としており、事業

引用する

処理部分の記述は基準集を参照可能

5. 監査論 (2022年4月頃～)

(1) 基礎マスター期のポイント

■テキストの内容をある程度説明できるようにする（特に章末の問題）。

■復習の仕方や意識するポイントは、財務理論と概ね同様。

(2) 復習サイクル・学習方法の例

○講義受講時：集中してメモを取る。講義中理解できないポイントは付箋を貼るかテキストにメモ→講師に質問。



○講義直後：その日のうちにざっくりテキストを確認。



○講義翌日：章末の問題をきっかけとして、テキスト・メモ書きを確認。まずは全体像と趣旨をざっくり掴む。



○次回講義までに：もう一度テキストを確認。できれば重要概念は覚えてしまう。数回前の講義内容も確認。ミニテスト受講。



○実力テストまでに：テキストを1周確認。

○上級講義までに：重要語句を中心に、テキストを1周。テキストの目次、章末の問題や重要概念一覧をきっかけとして、理屈や大まかな内容が説明できるか確認。

第1節 財務諸表監査の理論と制度

(2) 監査基準の必要性

「社会的影響力のきわめて大きい現代の財務諸表監査においては、監査人と利害関係者との間に人的信頼関係はなく、その信頼性を利害関係者が認知することは困難である。また、監査人の能力や経験にも差異があるため、監査の一切をあげて監査人の主観的な判断に委ねたのでは、その証明水準が一定に定まらず、利害関係者は、その結果を無条件に信頼することができない。そのため、財務諸表の監査に当たり準拠すべき社会的な規範として監査基準を設定し、その遵守を求めることにより、社会的信頼を受けるに足る監査人を具備する監査が常に実施されることを制度的に担保し、財務諸表監査の社会的信頼性を確保することが必要となる。監査人の監査を担保する必要性」。

また、監査に関して監査人が負担する責任の範囲が明らかにされない場合、監査人は従って過重な責任を追究されるおそれがあり、財務諸表監査は制度的に安定しないこととなる。そのため、監査人の責任の範囲を明らかにするために、「被監査会社や監査人、利害関係者等の監査関係者（監査に利害を持つ種々の関係者）の利害を妥当に調整して監査基準を設定することが必要となる。監査人の監査を明確化する必要性」。

以上要するに、監査基準は、財務諸表監査の社会的信頼性を維持し高めるとともに監査人の責任範囲を明らかにし、もって監査制度を確立し、円滑な運営を図るための社会的合意を得たルールとして設定されているのである。

わが国の代表的な監査基準としては、企業会計審議会の設定する「監査基準」が挙げられる。その設定前文には以下のように「監査基準」の定義が示されている。

監査基準は、(ア)の中に(イ)として示されたもののなかから、一般に(ウ)と認められたところを指し示す原則であって、職業的監査人は、財務諸表の監査を行うに当たり、(ウ)によって制約されなくとも、常にこれを遵守しなければならない。

(*) 監査人が遵守すべき監査基準には、日本公認会計士協会の設定する指針も含まれる。代表的なものとして「監査基準委員会報告書」が挙げられるが、その詳細の解説は上級講義に譲り、入門期では「監査基準」を中心に扱う。「監査基準」は、上級講義で扱う議論の根幹に位置するものであるため、入門期のうちにマスターしておいてほしい。

学習上のポイント

- 監査基準は、(ア)の中に(イ)として示されたもののなかから、一般に(ウ)と認められたところを指し示す原則であって、職業的監査人は、財務諸表の監査を行うに当たり、(ウ)によって制約されなくとも、常にこれを遵守しなければならない。
- 監査人は、(ア)の中に(イ)として示されたもののなかから、一般に(ウ)と認められたところを指し示す原則であって、職業的監査人は、財務諸表の監査を行うに当たり、(ウ)によって制約されなくとも、常にこれを遵守しなければならない。

第2節 財務諸表監査の目的と機能

財務諸表の監査は、「(ア)の作成した財務諸表が、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、企業の(イ)、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を全ての重要な点において(ウ)に表示しているかどうかについて、監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を(エ)として示すものである」。

財務諸表の表示が(ウ)である旨の監査人の(エ)は、財務諸表には、全体として(オ)がないということについて、(カ)を得たとの監査人の判断を含んでいる。

第3節 監査人

監査人は、(ア)の作成した財務諸表が、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、企業の(イ)、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を全ての重要な点において(ウ)に表示しているかどうかについて、監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を(エ)として示すものである。財務諸表には、全体として(オ)がないということについて、(カ)を得たとの監査人の判断を含んでいる。

第4節 監査人

監査人は、(ア)の作成した財務諸表が、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、企業の(イ)、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を全ての重要な点において(ウ)に表示しているかどうかについて、監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を(エ)として示すものである。財務諸表には、全体として(オ)がないということについて、(カ)を得たとの監査人の判断を含んでいる。

暗記メモについて

<TAC>無断転載・複製・公衆送信を禁じます。

12×7cm.

1.作成のポイント

- ルーズリーフ式のものを使う
- 表面に「～とは」、裏面に答えを書く
- 作成日、テキストページも記入する
- 集中できない時用の作業とする
- 1日MAX数枚のイメージ
- 答練で出たらカラーシール貼って出た回メモ ex.キソ①, 応用①第2問 etc.

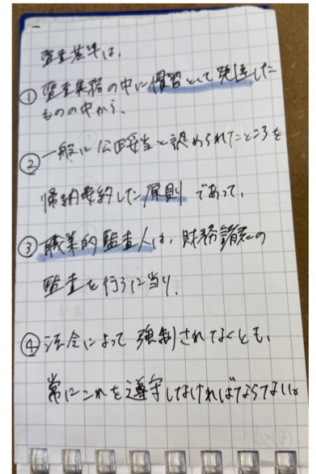
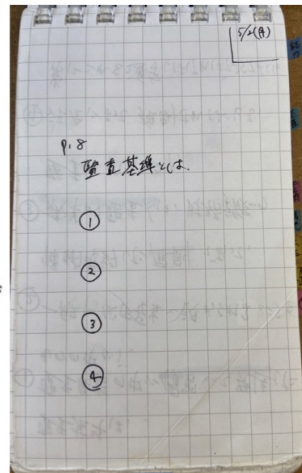
LIHIT LAB TWISTNOTE N-166(おすすめ)
(色分けしてました)

2.使い方

電車待ち・信号待ち・散歩時に左手に持って、
表面の問題を見て、声を出さずに暗唱

途中で詰まったら、裏面の答えをちらっと見てok

スマホ代わりに持ち歩くと暗記が効率良く進むはず



まずは項目分けなどして、ざっくり覚える。
ex. ①何かを渡して ②何かをもらった時に収益認識

1/22(土) 作成日

P.57 実証主義とは

①

②

自分で項目化する。

カラーシールを貼る

答練で出るとさらに重要度アップするので。

フィルムふせんをこおり代わりに使う。

キソ①キソ②

エにめくると

頭文字を ① きざえ
まが覚えろの ② たげと
おすすめ。

① 企業外部の第三者に
財貨又は役務を提供し

② その対価としての
現金又は現金等価物を
受領した時点で
収益を認識する等

特に大事な
語句は
青マーカー
など

一日のスケジュール例

Q.社会人受験生のスケジュールが知りたいです。

Q.勉強は量ではなく質にこだわるべきだと思っているのですが、この時期どれくらいの勉強時間を確保した方がいいのか分かりません。おおよその目安や勉強リズムのアドバイスをお願いします。

ポイント

- 勉強時間数よりも、講義後の復習サイクル、取り組む論点や内容・頻度を目標とする。
- 週に半日～1日バッファを設ける。
- 一般的には、午前中が一番集中力が高く、夕方頃にもう一度上がり、徐々に下がっていく。
- 財務計算の自習は基本的に毎日。管理計算も2日に一度以上など(財務理論も毎日触れたい)。
- 理論科目は、まとまった時間を取ることもよりも頻度を上げることを意識。
- 前に進んでいる感覚を大事にする。

【社会人受験生のスケジュール例】

平日(夜型)		平日(朝型)	
6時頃～7時半	起床・財務計算トレーニング	4時～5時半	起床・財務計算トレーニング
電車	理論科目のテキスト・企業法問題集、計算下書きなど	～7時	講義受講・復習
9時半～17時半	仕事(隙間時間や昼休憩時に前日の復習など)	電車	理論科目のテキスト・企業法問題集、計算論点チェックリストなど
電車	理論科目のテキスト・企業法問題集、計算下書きなど	9時半～17時半	仕事(隙間時間や昼休憩時に前日の復習など)
18時半～22時半	講義受講・復習など	電車	理論科目のテキスト・企業法問題集、計算論点チェックリストなど
23時半～24時	一日の振り返り・就寝	18時半～20時半	朝の続き・もう少し進めたい科目
		～21時半	一日の振り返り・就寝
土日			
	7時～8時半		起床・財務計算トレーニング
	～9時		財務理論じっくり読み(軽く朝食)
	～12時		講義受講か管理・財務計算のトレーニング復習・テキスト確認など
	～13時		昼食(軽く企業法)・散歩・仮眠15分
	13時～15時半		講義受講か管理・財務計算のトレーニング復習・テキスト確認など(集中が途切れたら他の科目を挟んだり、家事など)
	15時半～18時		講義受講か管理・財務計算のトレーニング復習・テキスト確認など
	18時～18時半		散歩・ランニング・夕食など
	18時半～21時		リラックスタイム又は軽めの勉強(計算テキスト1冊パラ見など)
	23時半～24時		一日の振り返り・就寝

【大学生のスケジュール例】

7時半～8時半	起床・財務計算トレーニング
～9時	軽めの朝食
～9時半	財務理論じっくり読み
～12時	前日の講義復習、財務計算・管理計算のトレーニング・テキスト 又は計算講義受講
～13時	昼食(軽く企業法)/仮眠15分
13時～15時	大学講義
16時～17時半	財務計算トレーニング、財務理論など
～18時半	夕食
～21時半	講義受講or大学の課題orもう少し進めたい科目
23時半～24時	一日の振り返り・計算テキストパラ見・就寝

【学習専念生(TAC通学生)のスケジュール例】

7時～8時半	起床・財務計算トレーニング
電車	理論科目のテキスト・企業法問題集など
～9時半	財務理論じっくり読み
～12時	前日の講義復習、財務計算・管理計算のトレーニング・テキスト
～13時	昼食(軽く企業法)・散歩・仮眠15分
13時～15時半	財務計算のトレーニング・テキスト(集中が途切れたら他の科目を挟む)、実テ・パワーアップ問題
15時半～16時半	管理計算のトレーニング・テキスト
16時半～17時	軽めの夕食・散歩
17時～18時半	前回・数回前の講義内容復習・仮眠
18時45分～21時45分	講義受講
電車	ざっとテキストで講義内容確認・一日の振り返り
22時半～23時半	リラックスタイム・就寝

注：あくまで一例です。置かれている状況・環境や各科目の学習進度(インプット・理解・維持など)で異なります。

IV. その他事前にいただいたご質問

Q.トレーニングを解く際、その間隔は数日空けて取り組むべきでしょうか？それとも1日おきなど、短いスパンで解くべきでしょうか？

↓

A.次回ミニテストまでの計算処理定着に必要と感じたら、2・3日以内にもう1・2度解き直すとよいでしょう。その後は実力テスト・パワーアップ問題の準備時(2～4週間後頃など)を目安に何度か解き直すと、ほどよく忘れていてインプット確認に効果的と考えられます。

Q.トレーニング問題が1回でなかなか解けません。問題文を読んでも、何を聞かれているのかがわからず、回答をみて、そういうことか、確かに授業でやったな…と思える時もあるれば、回答を見ても謎なものもあります。テキストを持ってきて、繰り返し解いてみて、なんとか徐々にわかっていくのですが、1回目で全く解けないというのが不安です。どういう勉強をすればいいのでしょうか？

↓

A.1回目ではまだ解けないことがほとんどだと思います。何を聞かれているのかわからないという点は、「シート」を使うと解消されるはずです。例題についても、最初はシートを使って期中・期末の仕訳の流れを追うと、ハードルが下がります。トレーニングで全く手も足も出ない場合には、テキスト例題(管理の場合には例題集)を見ながら、問題にあてはめる意識で解くのがおすすめです。

Q.お世話になります。初学者です。簿記2級・1級の受験を考えているのですが、それぞれどのくらいの時期に試験範囲の講義が完了するのか教えていただけますでしょうか。いつ頃受験できるレベルに達するのか目安にさせていただきますと幸いです。

↓

A.
簿記2級については、入門講義と財務の基礎マスター2なども含まれますが来年2月の実施回には合格レベルに達します。簿記1級については、財務計算基礎マスター・管理会計基礎マスターで概ね範囲が完了(一部上級範囲)し、来年6月の実施回には概ね合格レベルに達します。

Q.短答式では財務会計論を免除予定ですが、論文式のみをターゲットとした場合、どのように勉強していくのが良いでしょうか。不必要なトレーニング等は極力カットしたいです。事業会社で正社員として勤務する傍らの受験となり勉強時間を満足に取ることが出来ないためです。なお、簿記は4・5年前に税理士試験の簿財で死ぬ気で勉強したものの、時の経過により内容はだだ忘れており、リハビリ状態で受講しております。

↓

A.総合問題を中心として復習するのが効果的です。現金・帳簿組織・棚卸資産・特殊商品売買・本支店会計などの細かめの論点はテキスト例題の理解でも論文に対応できる可能性があります。その他の論点は論文でも難易度の易しい状態で問われる可能性があります。以下参考にしていただければと思います。

ex.

個別論点(テキスト1～4、テキスト10一部)…トレーニングで基本的な処理を押さえた後、実力テスト・パワーアップ問題を繰り返し解いてテキスト確認。論文で重要性が高い論点はトレーニングも反復。
構造論点(テキスト5～9、テキスト10一部)…テキストと実力テスト・パワーアップ問題を中心

Q.現在基礎マスター I の講義を受けており、簿記3級の知識しか持っていないためライブ授業だけでは理解ができません。なので自宅でもう一度録画の授業を見ているのですが、予習を行なって上で、ライブ授業に参加すべきでしょうか？

↓

A.はい、入門2の講義を見てから、基礎マスター講義に再度合流しましょう。

Q.小野先生や安達先生はどんなお住まいに住まわれているのでしょうか？億ションですか？何ヒルズですか？会計士目指している僕らに夢見させてください!!

↓

A.ホームルームではお伝えできかねますが、小野さん、安達さんや他の講師もzoom質問コーナーなどにいらっしゃいますので、ぜひ直接いろいろと話してみてください。

よくいただくご質問

モチベーションについて

Q.モチベーションはどのように保てばよいでしょうか。なかなかやる気が出ない日が続くことがあり、勉強のペースに波があります。

↓

A.
モチベーションが高い/前向きな気持ちで長時間集中できるという時間帯がたまに訪れたらラッキー、モチベーションが下がり過ぎないようにネットとの接触や体調管理に気を付ける、程度に考えるのがおすすめです。また、自習で集中できるのは、専念生だと午前中の数時間や夕方の1時間程度、という受験生が多いです。

以下を参考にしていいただければと思います。

■財務・管理のミニテストで毎回満点を取ることを最優先目標とする。実力テスト受講後は、丁寧にインプット不足・ミスの原因を分析する。

■体調が今ひとつな時用の勉強・作業を決めておく。

■飽きたら簡単な計算問題（例題・ミニテストなど）を挟む。科目・論点を替える。理論科目

■勉強時間よりも、取り組む論点や内容・頻度を目標にする。週に半日～1日バッファを設ける。机を使わない勉強方法を取り入れる（散歩や筋トレをしながら講義内容を思い出すなど）。

■理論科目のテキストについて、1ページ5～30秒などで30ページめくり続ける。気になる論点には付箋。

■zoom/校舎質問コーナーを定期的に活用する。

※やる事が明確になり自信を持って進められますし、短時間でも人と話すとすっきりします。質問時に質問内容の説明をすること自体が理解確認・定着にもつながります。具体的な内容質問以外でも、講師/チューター自身が入門・基礎マスター期どのように過ごしていたかなど聞いてみてください。

1セット
15分・25分・55分・90分などで
やる。

講義の進捗・時期別のポイントについて

Q.DVDで受講しており、講義の進捗がカリキュラムから大きくずれてしまいました。どのように立て直せばよいでしょうか。ライブで受けている受験生がどのように過ごしているか、時期別のポイントなどを知るにはどのようにすればよいでしょうか。

↓

A. 私も経験がありますが、DVD通信で受講されていると一気にDVD/教材が届くため、受講ペースや教材の扱いなどなかなか難しいと思います。ぜひ、**zoom/校舎での質問コーナー（予約不要）、個別学習方法相談（ネット予約）**を定期的にご利用いただければと思います。

また、2～3ヶ月に1度など、定期的に時期別の学習法・ポイントについて、今回のようなオンラインセミナーを実施しています。

webschool「講座からのお知らせ」欄のほか、TAC会計士講座の公式ツイッターhttps://twitter.com/tac_cpaでもご案内しますので、ご確認いただければと思います。

睡眠について

Q.夜寝付きが悪いです。寝る前のおすすめの過ごし方を教えてください。

↓

A.日中の日光不足・運動不足、直前まで勉強をして神経が昂ぶっている、寝る前に食べ過ぎ、ストレス・不安などの原因が考えられます。以下を参考にいただければと思います。

- 朝起きたら日光を浴びる。
- 日中・夕方頃などに少し体を動かす。散歩・筋トレ・ランニングなど。
- 寝る数時間前になったら、部屋の照明を暖色にするなど。
- 寝る超直前は、もし勉強するとしても軽めの内容に抑える。その日一日でやった内容を振り返る、計算テキストをパラパラめくる、ごく簡単な計算問題を解いてリラックスなど。
- 好きな音楽を聞いてリラックスする。温めた牛乳やココア・白湯をゆっくり飲んで一息つくなど。
- 大の字で思い切り寝っ転がる。
- 眠くなってから布団に入る。
- 不安でもやもやしたら、翌日に時間を設けて、紙に全て書き出す（夜に考えず翌日に回す）。

[MEMO]